

足立運輸株式会社に勤める奥田は、預金残高を確認するために、銀行に電話を入れた。

「ありがとうございます。あさひ銀行磯子支店でございます」

「私、足立運輸株式会社経理部の奥田と申しますが、当座預金の残高を確認したいのですが」「かしこまりました。それでは折り返しお電話でお知らせすることになりますかよろしいでしょうか？」

「はい、結構です」

「では、お口座番号とお名前、それとお届けになっているご住所とお電話番号をお願いします」

「はい、口座番号が当座預金の二一六八三四一、足立運輸株式会社です。住所は横浜市磯子区岡村一―八―七一、電話番号は〇四五―九―一―一八―一五です」

「かしこまりました。私、荒井と申します。すぐにお調べして折り返しお電話いたします」「よろしく願います」

受話器を置いてから数分後、奥田あての電話が取り次がれた。

「奥田さん！ あさひ銀行の荒井さんという方から一番にお電話です」

「はい、奥田です」

「もしもし、あさひ銀行磯子支店の荒井と申しますが、奥田様でいらっしゃいますか？」「はい、そうです」

「先程お問い合わせいただきました、当座預金残高を申し上げますがよろしいですか？」

「はい、願います」

奥田はあわててメモの用意をした。

「ただ今の残高、一七万一千四百九十一円となっております」

「一七万一千四百九十一円ですか？ ええと振込が一件あったと思うんですが・・・」

「そうですか。どちら様からおいくらくのお振込ですか？」

「浅見工業株式会社から百五十万円振り込まれているはずですよ」

「それでは振込の確認をしてみますので、少々お待ち下さい」

受話器からは保留のメロディが流れ、数十秒後、

「大変お待たせいたしました。ただ今お調べしてみました、浅見工業株式会社様からのお振込は今のところないようです」

「確かに昨日、手続きを済ませたと言っていたんですけど」

「電信振込か文書振込、どちらで手続きされたかおわかりになりますか？」

「いいえ、わかりません」

「電信扱いですと当日入金になりますが、文書扱いですと入金までに多少お時間をいただくこととなりますので、おそらく先方様は文書扱いで振り込まれたのではないのでしょうか？」

「そうかもしれません。ではその場合、入金されるのはいつ頃になるのでしょうか？」

「通常は二、三日で入金となります」

「そうですか。早ければ明日には入金されるかもしれませんがね。ではまた明日、確認してみます。ありがとうございます」

奥田は少しホッとした表情で受話器を置いた。